

仲間づくり教養コース ②国際社会学

大転換期を迎えた21世紀の世界を読み解く

第1回 世界の重心が転換する

BRICSとG7

日時 10月22日(土) 10:00am~

場所 鶴瀬公民館 第三集会室

講師 堀江則雄氏 (法政大学社会学部 講師)

受講生 38名

第39期の「国際社会学講座」がスタートしました。

21世紀の世界は、欧米中心主義の世界史から多極化し、大きく変化しております。

そこで今期は、一国ではなく全世界にその目を広げ、本当の世界史への転換期を多角的に学習して参ります。

第一回目は、大きな源流として、いま台頭し注目されているBRICS（ブラジル・ロシア・インド・中国・南アフリカ）の存在を学習しました。

講師は、昨年に引き続き堀江則雄先生です。同氏は東京外国語大学ロシア学科を卒業後、国立国会図書館に勤務。現在は法政大学社会学部講師としてご活躍されております。またこの度、4月から「日本ユーラシア教会(東京都世田谷区)」の理事長に就任され益々ご多忙を極めておられます。

<はじめに>

○この夏の体験から（堀江講師）

- ・カザフスタンでの、アスタナ万博開催、核なき世界国際会議
- ・キルギスでの、遊牧民オリンピック競技「蒼き狼」を楽しむ

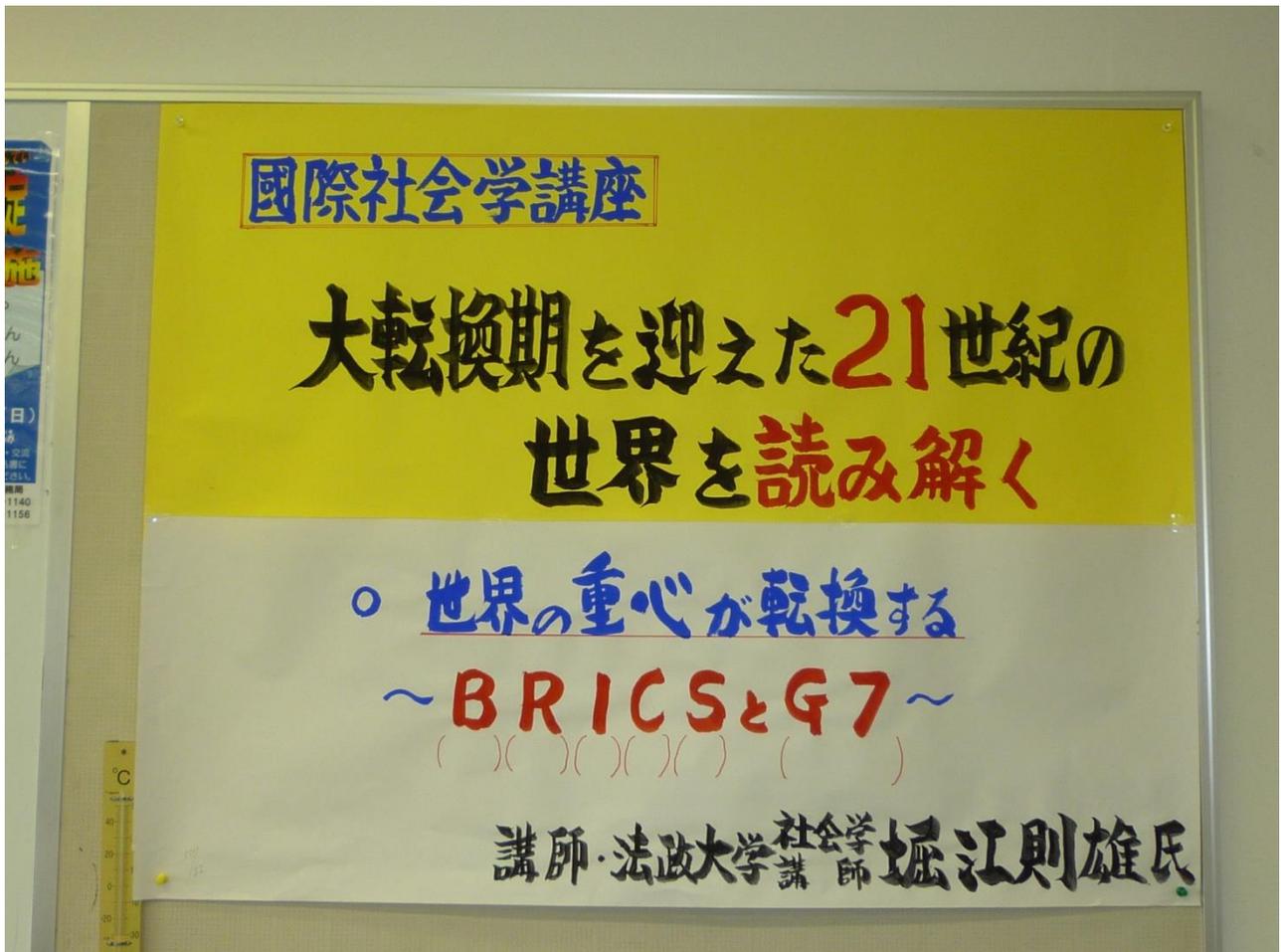
欧米から非欧米への歴史的転換

○16世紀に始まった大航海時代、ユーロセントリズム（欧米中心主義）の世界を席卷し近代化
西欧に学べ、追いつけ追い越せ、その500年が終わりに近づきつつある

経済力で非欧米が、欧米を逆転

○GDP（国内総生産）：新興国と成長国（150ヶ国）が、21世紀に入り急成長し、2011年ついに先進国（34ヶ国）を逆転

○BRICSの5ヶ国とG7とのGDP推移の比較でも、同様の傾向



○世界のGDP（国内総生産）：IMF（国際通貨基金）の統計

	2000年	2011年
先進国（34ヶ国）	25.8兆ドル（61%）	38.8兆ドル（49.1%）
新興国（150ヶ国）	16.6兆ドル（39%）	40.2兆ドル（50.9%）

○世界の富の移動：OECDの統計

各国のGDP統計に占めるOECD加盟国と非加盟国の比較（購買力平価ベース）

2000年 60 : 40
 2010年 51 : 49
 2030年推計 43 : 57

○中国、米国、日本のGDP比較：IMF 2014（単位10億ドル）2015年以降は推計

	2013年	2015年	2017年	2019年
中国（為替レート換算）	9.469	11.285	13.263	15.519
〃（購買力平価換算）	16.149	19.230	22.781	26.866
米国（為替レート換算）	16.766	18.287	20.169	22.148
日本（為替レート換算）	4.899	4.882	5.155	5.433

BRICSの進展とG20

- BRICS（ブラジル・ロシア・インド・中国・南ア）2001年ゴールドマン・サックス社報告書
- 2009年首脳会議発足
- 毎年首脳会議宣言＝国際金融市場の規制、通貨システムの多様化、公正で民主的な多様化された世界、経済成長低迷
- 2008年世界金融危機（リーマンショック）を契機に、
G20発足
（G7+BRICS+韓国、インドネシア、トルコ、サウジアラビア、オーストラリア、メキシコ、アルゼンチン）



世界金融の欧米支配への対抗

- IMF（国際通貨基金）・世界銀行体制に対抗し、各国の開発や経済発展を支援する金融機関の出現～BRICS開発銀行（2014年発足、500億ドル）、緊急外貨準備基金（1000億ドル）、SCO開発銀行（2015年、500億ドル）、AIIBアジアインフラ投資銀行（2015年、58ヶ国、1000億ドル）
- 新機軸通貨を模索